



富山ガラス造形研究所
Toyama Institute of Glass Art

〒930-0143
富山県富山市西金屋 80 番地
TEL 076-436-2973
FAX 076-436-2974



Website
<https://toyamaglass.ac.jp>



Instagram
@tiga_glass



YouTube
toyamainstituteofglassart7418

TOYAMA INSTITUTE



Glass
Certification Studies
Program

Advanced
Research Studies
Program

GLASS ART

2025

世界とつながるプロフェッショナルを、富山から。

富山ガラス造形研究所

日本屈指の充実した環境で学ぶ

所長 本郷 仁



富山ガラス造形研究所は、プロのガラス造形作家の育成を目指して1991年に設立され、今年で開校35年目を迎えました。これまでに延べ624名の卒業生を輩出し、多くが国内外でガラス作家や指導者として活躍しています。

日本屈指の教育環境を誇る本校では、経験豊富な教授陣のもと、最先端の設備を活用しながら、ガラス芸術を専門的かつ実践的に学ぶことができます。また、本校の大きな特長の一つは、世界とつながる学びの場があることです。2名の外国人数員によるグローバルな視点からの指導に加え、著名な海外作家によるワークショップ、さらには海外の芸術大学との交換留学制度を通じて、多様な創造力を養うことが可能です。さらに、様々な分野の第一線で活躍する特別講師による講義も充実しており、学生一人ひとりの感性に刺激を与える、ダイナミックな学びが展開されています。本年度からは、より実践的な教育体制を整えるため、造形科において「フレームワーク」の必修化と新科目「造形演習」の開講、研究科では「プロフェッショナルアート演習」を導入するなど、卒業後の自立を見据えたカリキュラムの強化が図られています。表現力・技術力・思考力を総合的に育む教育を推進し、学生の成長を多角的に支援しています。

また、富山市は「ガラスの街とやま」を掲げ、約40年にわたりガラス文化の振興に力を注いできました。本研究所、富山ガラス工房の整備に加え、2015年には富山市ガラス美術館が開館し、街全体が創造の舞台となる環境が整っています。現在、本校では海外留学生を含む42名が、この恵まれた環境で学び、自らの未来に向けて歩みを進めています。

私たち教職員は、学生一人ひとりがガラス造形の知識と技能を深め、豊かな創造力を育ていけるよう、全力でサポートしていきます。ガラスの道を本気で志す、意欲あふれる皆さんの入学をお待ちしています。

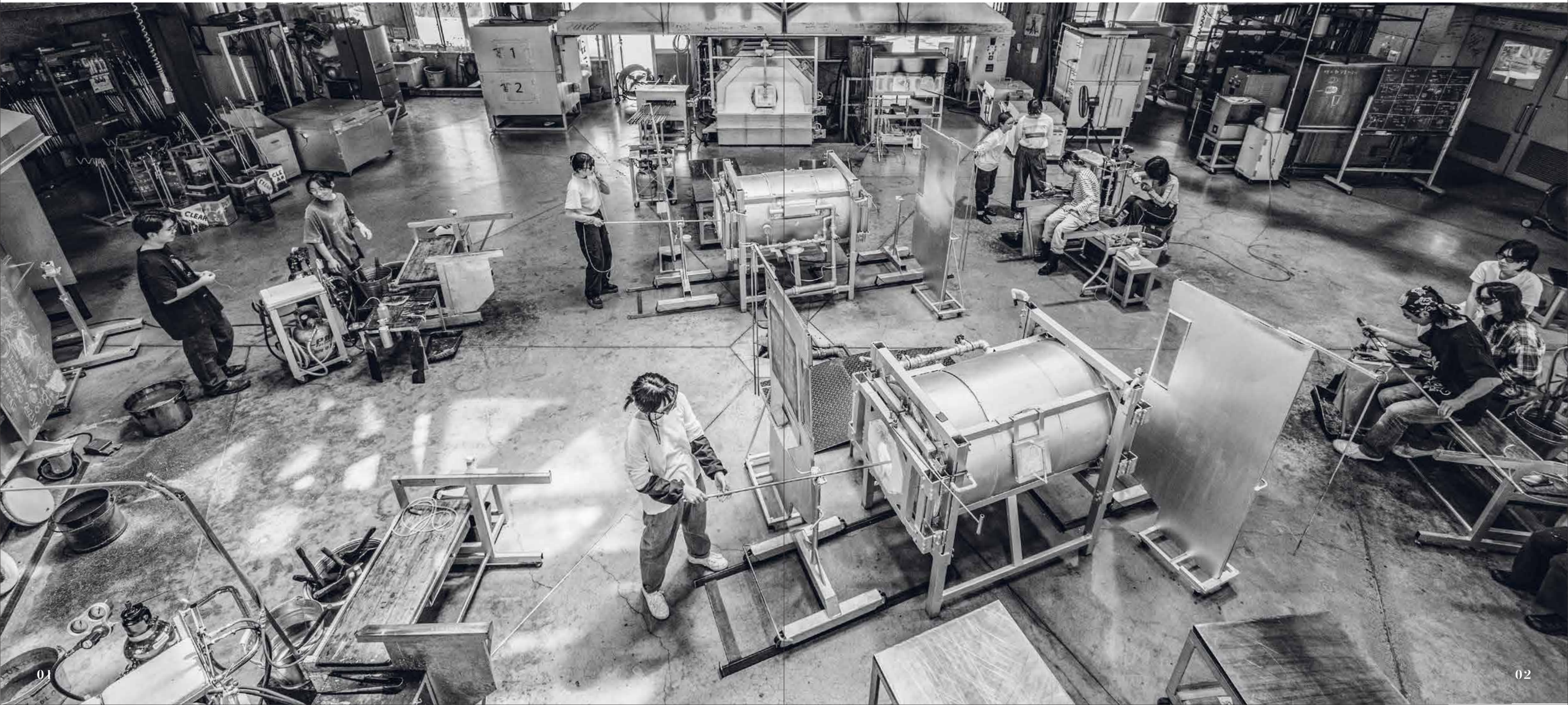
可能性を広げる新たな実践的カリキュラム

主任教授 中神 牧子



富山ガラス造形研究所は、日本初、かつ唯一の公立ガラスアートの専門教育機関です。また富山という自然豊かな場所で、本当にガラスを学ぶことに集中でき、また隣接する富山ガラス工房、街の中心部に富山市ガラス美術館があり、ガラスの街とやまということで、ガラスを制作し、ガラスに触れるのに大変素晴らしい環境にあります。もともと私自身は、大学生時代に恩師のマイケルロジャースと共に研究所のワークショップに見学に行っていました。そこでは、外国から来た先生が、今まで見たことのないような制作やグループワークをやっていて、行くたびにドキドキワクワクしていました。今も、私たちスタッフは、富山で学ぶことで、どんどん可能性を広げられたり、世界ともつながっていけるような教育を目指しています。常時2名の外国人先生がいて、4名の先生達、6名の助手が学生のサポートをしています。2025年度から始まった造形科1年生のフレームワークの必修化、新しくなった基礎造形の授業、造形科2年生の造形演習、研究科のプロフェッショナルアート演習では、新しいスタイルが見られます。

研究所へ入学してくる学生たちは、年齢もバックグラウンドも様々ですが、ガラスに惹かれ、もっとガラスのことを知りたい、制作したい、という気持ちでここに来ます。この2年間で、技術だけでなく、発想力、作品を展開していく力を身につけ集大成として、富山市ガラス美術館で卒業制作展を行います。制作に関しても、器を制作したい人、工芸を目指す人、建築やデザイン、インテリア、また現代アートやパブリックアートなど方向性は本当に様々です。卒業後もガラスと関わっていく卒業生の割合は多いと思います。隣接する富山ガラス工房へ就職する人、レンタルしながら作家活動を行う人、個人作家さんの工房アシスタントや海外で活動する人、自分の工房を設立する人や進学する人、卒業生の活躍もまた私たちにとっては本当に嬉しいことです。こうした卒業生の皆さんの活躍や、学校に教えに来てくれる方々も含め、ガラスを学ぶなら富山！という場所であるように日々精進してまいります。



造形科

デッサン・デザイン等の基礎の造形教育を重視し、ガラス造形に必要な基礎的な理論及び技法を学習します。個性・創造性を伸ばすことを主眼に、選択科目の中で自主的な制作を通して多彩な表現力や造形力を養います。

造形科1年生の授業

ホットワーク I | HOTWORK I

担当：宮本 崇輝 Takaki Miyamoto
中神 牧子 Makiko Nakagami

ホットワークに必要な基本的な技術を学びます。竿の持ち方から、どのように溶けたガラスを巻いて成形していくか、また共同制作を通じて、技術の習得と向上に取り組みます。さらに課題を通して個々のアイデアを反映していきます。

フレームワーク I | FRAMEWORK I

担当：小曾川 瑞那 Runa Kosogawa

フレームワークは、酸素バーナーで耐熱ガラスを加工する技法です。1年次はストリンガーワーク（ケーンワーク）、菅ガラスブロー、色ガラスの使い方など、基本的な技術と機材の知識を習得します。課題を通してアイデアのアウトプット方法や他技法の併用について学ぶことで、素材に対する理解度と探求心を深めていきます。

キルンワーク I | KILNWORK I

担当：松藤 孝一 Koichi Matsufuji

キルンワークとは電気炉でガラスを成形する作業のことを言います。キャスティング、パート・ド・ヴェール、フュージング、スランピングなど、キルンワークの基本的な技法を習得しながら、素材としてのガラスを学ぶことになります。後半では、前期に学んだ素材や技術をベースに、キルンワークでの新たな表現手法を探し始めます。

コールドワーク I | COLDWORK I

担当：イーリ・スヒー Jiri Suchy

研磨やカット、サンドブラストや接着などコールドワークの基礎技術について幅広く学んでいきます。担当教員と話し合いを重ねながら、与えられたテーマについて深く考え、コンセプトを作り、コールドクラスや他の教科で習得した技術を組み合わせ、制作を進めていきます。

基礎的な造形力を養う





造形科2年生の授業

ホットワーク II | HOTWORK II

担当：中神 牧子 *Makiko Nakagami*
宮本 崇輝 *Takaki Miyamoto*

ホットワークの基礎的な技術をさらに高め、実験的な作品制作を行うなど、それぞれの興味や関心に応じてアイデアを発展させ、新しい発見を促すことを目的に課題を組み立てています。また作品展示のためのサイズ感や最終形も踏まえたスケジュールを意識していきます。さらにリサーチを通して見識を広めていきます。

フレームワーク II | FLAMEWORK II

担当：小曾川 瑠那 *Runa Kosogawa*

1年次で学んだことをベースにそれぞれが関心のあ分野のリサーチや実験を自主的に取り組めるよう促します。卒業制作を意識した課題を通して、自分に適したサイズ感、作品の出力の幅を拡げる方法、展示方法、オリジナリティについて深めていきます。視野を広げ柔軟な思考方法を身につけられるようグループディスカッションも行います。授業の後半では卒業後の活動を見据えて一歩踏み込んだ機材の知識を共有します。

※2年次はホットワークまたはフレームワークのどちらかを選択することになります。

キルンワーク II | KILNWORK II

担当：松藤 孝一 *Koichi Matsufuji*

初年度で学んだキルンワークの技法やガラスの特質をもとに、自作品のオリジナリティを追求していきます。半期の研究のほか、グループディスカッションやアーティスト・ステイトメントなどを通して、様々な角度からガラスの作品化を目指します。最終的に、研究発表として学外での展示を行います。

コールドワーク II | COLDWORK II

担当：イーリ・スヒー *Jiri Suchy*

ウォーターサンダーや独自のツールを使用した共摺りなどの応用技術を学び、様々な表面加工を習得、また酸洗い加工による表現の違いも学習します。各自のテーマに沿って好みの技法を用いて制作していきながら、学外でのコールドクラス展へ向けて、より専門的な技術とコンセプトを深めた作品制作を目標とします。

※2年次はキルンワークまたはコールドワークのどちらかを選択することになります。



造形科2年間の中で修得する科目

基礎造形 | FOUNDATION

担当：平面／ナオ・カワノ・フジイ *Nao Kawano Fujii*
立体／渡辺 愛 *Mana Watanabe*

1年次前期の授業で、平面作品と立体作品についての基礎的な知識と技術を習得します。ガラス以外の様々な素材に触れながら、演習課題を通して「観察力」「構成力」「想像力」を養います。

造形演習 | ART PRACTICE

担当：佐々木 類 *Rui Sasaki*

2年次前期の授業で、作品制作に関することについて総合的に学びます。素材を知ること、ものを作ることから始まり、制作アイデアの展開や作品の展示方法など、制作に関する様々な要素について実践的に学習します。

ガラス材料学 | GLASS MATERIALS

担当：吉野 徹 *Toru Yoshino*

材料学研究の視点から物質としてのガラスを学びます。「ガラスとは何か」という分子構造の疑問から建材や工業製品のガラスに至るまで、最古の人工素材と言われるガラスの特性と魅力に対し科学的に迫ります。

※隔年の開講になります。

ガラス工芸史 | HISTORY OF GLASS ART

担当：土田 ルリ子 *Ruriko Tsuchida*

ガラスの起源から現代ガラスまで、幅広くガラスの歴史を学びます。時代を切り開く斬新な発想や、それを支える技術の展開をたどり、現代の作り手に繋がる制作の歴史的背景について考察します。

※隔年の開講になります。



研究科

学生自身の制作スタイルで、日々、研究を進めていきます。
月1回の全教員による制作過程のチェックを通して、
プロとしてのオリジナリティの確立を目指すための
新たな視点を持ち、可能性を広げていくことができます。
また2025年度に新設されたプロフェッショナルアート演習では、
特別講師を招いた特別授業が行われます。
さらに、渋谷良治顧問による個別指導も行い、
各自の研究と制作をサポートします。

研究科の授業

プロフェッショナルアート演習

| PROFESSIONAL ART PRACTICE

プロとしてのオリジナリティの確立、言語化する力や
プレゼンテーション能力の向上を目指し、さまざまな
分野の講師による特別授業を行います。

[2025年度講師]

宮永 愛子 (現代美術作家)

山本 浩貴 (文化研究者、アーティスト)

研究制作 I・II | RESEARCH I・II

1年次は、担当教員の指導、助言を得ながら各自
研究テーマを設定し、立案した研究計画に基づい
て制作します。6名の教員による作品講評を定期的
に行い、アイデアの展開と表現力の向上を図ります。

修了制作 I・II | GRADUATION WORK I・II

2年次には作品のオリジナリティをより深め、修了制
作へと進んでいきます。学生1名に対して1名の教
員がチューターとして常に指導を行い、その担当教
員を中心に作品のアイデアから技術的な面までサ
ポートをします。

作家としてのオリジナリティの確立



全学共通の学びと制度



クレア・ペルフレージ氏によるワークショップ



小川真由子氏による特別講義



山本浩貴氏による特別講義



2024年度卒業制作展講評会

各分野の現役アーティストから学ぶ

ワークショップ | WORKSHOPS

年2回、国内外の著名なアーティストと制作する一週間
幅広い視野とグローバルな技術や考え方を身につけるために、国内外で活躍している著名作家を招聘して、春と秋に1週間のワークショップを行っています。ガラスに限らず多様な分野で活躍している作家と触れられる、貴重な機会になっています。
[2024年度 ワークショップ講師]
袴田 京太郎（彫刻家、武蔵野美術大学教授）
クレア・ペルフレージ（ガラス作家）

特別講義 | SPECIAL LECTURES

様々な分野のアーティストによる特別講義
見聞を広げる目的で開講する特別講義は、現代アート、建築、彫刻、デザイン、陶芸等、ガラス以外にも様々な分野で活躍されている方を招き、2時間程のスライドレクチャーを行っています。通常の授業では補うことのできないガラスの各種技法や、新しい表現方法、当研究所の卒業生の活動等も、この講義を通して紹介します。
[2024年度 特別講義講師]
佐藤 弘隆（現代美術家、富山大学助教）
小川 真由子（ガラス作家）
空耳カメラ（写真家）
田嶋 悦子（陶芸家、大阪芸術大学大学院教授）
ノア・ハギラディ（ガラス作家）
橋本 真之（鍛金家）
山本 浩貴（文化研究者、アーティスト）

講評会 | CRITIQUES

特別講師を招いて真剣な講評会
前期と後期の締め括り、そして卒業制作展の講評会に、当研究所6名の教員の他、外部より特別講師を招き、講評をしていただきます。この講評会では、いろいろな意見をいただき、次の作品制作に向けての指標にしていきます。
[2024年度 講評会講師]
高橋 由佳（富山市ガラス美術館主任学芸員）
中川 佳宣（美術家）
入澤 聖明（愛知県陶芸美術館学芸員）
渋谷 良治（ガラス造形作家、富山市ガラス美術館顧問、富山ガラス造形研究所制作アドバイザー）
島 敦彦（国立国際美術館館長）
稲塚 展子（富山県美術館学芸課副主幹）

アーティスト・イン・レジデンス | ARTIST IN RESIDENCE

国内外で活動するガラス作家の中から、毎年1名の滞在作家が選出され、その作家は約1ヶ月半富山に滞在し作品を制作します。期間中、公開講座や学生を対象とした講義や実演を行いながら、地域や学生との交流を図ります。期間終了時には富山市ガラス美術館で成果発表を行います。富山の自然豊かな環境の中で制作に取り組む事ができ、その成果は滞在期間終了後も作品を通して残っていきます。

卒業制作展 | GRADUATION EXHIBITION

2015年度より、卒業制作展を富山市ガラス美術館で行なっています。学生は、2年間の集大成として、ガラス作品を展示します。毎年、展示作品の中から優秀賞や特別審査員賞などが与えられます。2019年度からは、卒業制作展記念講演会を開催し、昨年度は、ガラス造形作家であり、富山市ガラス美術館顧問及び当研究所制作アドバイザーの渋谷良治氏、国立国際美術館長の島敦彦氏を招き、講評会と特別講演を行いました。9日間の展示期間に11,066名の方がご来場されました。

校外学習 | FIELD TRIPS

それぞれの学年やクラスで、様々な専門分野の展覧会や工房などを見学します。

学外展示授業 | EXHIBITIONS

授業の一環として、学生主体で展覧会の企画から展示作業までを学びます。この経験が、卒業後の作家活動の手助けになります。

地域連携授業 | REGIONAL ACTIVITIES

2018年度に、スタジオジブリと当研究所の学生や教員が、富山市ガラス美術館展覧会「ジブリの大博覧会」のガラス作品（灯籠）を共同で制作しました。



ガラス作家のノア・ハギラディ氏によるアーティスト・イン・レジデンス

研究生制度 | VISITING SCHOLAR PROGRAM

リサーチ・スタディー（研究生）は1年、6ヶ月、3ヶ月の中から期間を選択し、ガラス制作の研究を行うことができます。出願資格は当研究所研究科を卒業した方、またはこれと同等でガラス作家として2年以上の経験を有する方になります。
※年度によっては募集していないこともあります。

交換留学制度 | OVERSEAS EXCHANGE PROGRAM

提携大学の協力により、交換留学制度を設けています。選ばれた学生は、約3ヶ月間、海外でガラスを学ぶことができます。
※年度によっては募集していないこともあります。

提携大学	オーストラリア国立大学（オーストラリア）
	ブラハ美術建築デザイン大学（チェコ）
	ヘリットリートフェルト大学（オランダ）
	リベレツ工科大学（チェコ）

海外研修助成金 | SCHOLARSHIPS

海外では、数多くの短期ワークショップが毎年開催されます。学生は、夏休みを活用してそのワークショップに参加することができます。選ばれた学生は、提携校から助成金を得て、海外でガラスを学ぶことも可能です。

提携機関	アーバングラス（アメリカ）
	コーニングガラス美術館（アメリカ）
	ビルチャックガラス学校（アメリカ）
	ヘイスタックマウンテン工芸学校（アメリカ）



教員

富山ガラス造形研究所は、42名の学生に対して、
常時2名の外国人を含む6名の経験豊富で国際性豊かな教員と
5名の非常勤講師、そして特別講師、顧問が指導を行っています。
また、それぞれの教員は作家としても活動し、国内外で活躍しています。
学生は、その指導やアドバイスを受けると同時に、
制作過程なども身近に見て勉強ができる環境が整っています。

顔写真 撮影: Jiri Suchy

海外講師を交えた、各ジャンルのプロフェッショナルが指導



主任教授
中神 牧子
Makiko Nakagami
担当
ホットワーク

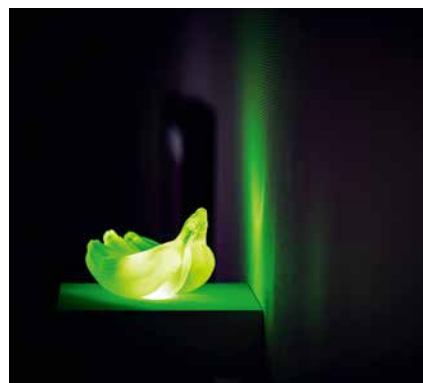


クシナグラスシリーズ
富山市ガラス美術館「まなざしとリズム
富山ガラス造形研究所教員10人の表現」
撮影: 柳原良平 (トリミングあり)

1994 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業
1999 金沢卯辰山工芸工房研修者修了



教授
松藤 孝一
Koichi Matsufuji
担当
キルンワーク

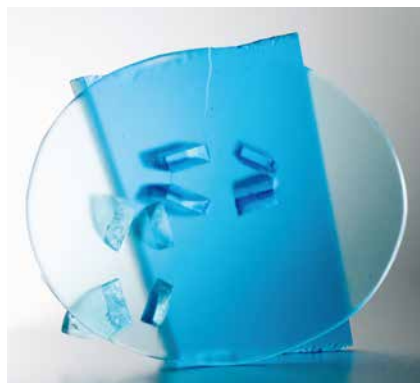


The Staring Monkey
撮影: 柳原良平

1995 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業
2001 イリノイ州立大学美術学部修士課程修了 (アメリカ)



准教授
イーリ・スヒー
Jiri Suchy
担当
コールドワーク



Blue Sashiko

1991 High Glass School, Nový Bor (チェコ)
2000 MgA. Academy of Arts, Architecture and Design, Prague (チェコ)



准教授
ディラン・パルマー
Dylan Palmer
担当
ホットワーク



Receiver

2000 Bachelor of Fine Arts, Illinois State University (アメリカ)
2005 Master of Fine Arts, Rhode Island School of Design (アメリカ)



講師
小曾川 瑠那
Runa Kosogawa
担当
フレームワーク



Profound Silence 富山市ガラス美術館蔵 撮影: 末正真礼生

2002 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科プラスチックコース卒業
2008 富山ガラス造形研究所研究科修了



講師
宮本 崇輝
Takaki Miyamoto
担当
ホットワーク



刻

2010 多摩美術大学工芸学科ガラス専攻卒業
2016 Möhl & Drivsholm Glas (デンマーク)

助手

常時6名の助手が担当の授業で学生の制作をサポートし、
学生により近い目線で授業の指導も行っています。
それぞれの助手が作家として、国内外で活動しており、
若手作家として世界に羽ばたいています。
学生は、卒業後の活動を身近に知ることができます。



橋本 亜紗
Asa Hashimoto
担当
通訳、アーティスト・イン・
レジデンス事業



Landscape

2001 パーソンスクールオブデザインファインアート科卒業 (アメリカ)
2018 富山ガラス造形研究所造形科卒業



天笠 夏美
Natsumi Amagasa
担当
コールドワーク



Somewhere Nowhere

2009 ロンドン芸術大学チェルシーカレッジファウンデーションコース卒業 (イギリス)
2018 サンダーランド大学ガラス工芸科卒業 (イギリス)



木村 珠里
Juri Kimura
担当
キルンワーク



200万年後より 001

2018 富山ガラス造形研究所研究科修了
2022 金沢卯辰山工芸工房研修者修了



廣瀬 絵美
Emi Hirose
担当
ホットワーク



in between

2013 富山ガラス造形研究所造形科卒業
2022 金沢卯辰山工芸工房研修者修了



上原田 梓
Azusa Ueharada
担当
ホットワーク



悠久と刹那

2023 多摩美術大学美術学部工芸学科卒業
2025 富山ガラス造形研究所研究科修了



松尾 里奈
Rina Matsuo
担当
フレームワーク



unknown unknowns

2016 東京ガラス工芸研究所総合応用科卒業
2019 富山ガラス造形研究所研究科修了

学生の声



研究科2年生
ジョン・ミンギョン Jeung Minkyung



Waiting on the cycle

ガラスで描く青春の1ページ

入学したきっかけは

手づくりに興味を持って色々な素材と技法を探索し始めた時、レジンと違って黄ばむことなく永遠に透明性を維持できるガラスの特性に惹かれるようになりました。これをきっかけに韓国のガラス工房で吹きガラスやフレームワーク技法を学び始め、熱く熔けたガラスを瞬間的に造形化する作業工程が魅力的だったので、次第にガラス作家を夢見るようになりました。プロ作家として活動するためには、さまざまな技法を学び、作品のコンセプトを確立する時間が必要だと感じました。そこで教育機関への進学を決め、その際に韓国の先生から富山ガラス造形研究所をおすすめいただきました。

研究所に入って

研究所では"作りたい"という気持ちを一つの作品として完結させるべく、さまざまなサポートを受けることができました。充実した設備と作業時間をもとに、定期的に先生方や様々な外部講師の方々と面談することで、多様な視点で私の作業について考えることができました。また、研究所は外部との交流が活発な所です。研究所では特別講義やワークショップが定期的に開かれることはもちろん、「ガラスの街とやま」という名にふさわしく様々な作家さんが活動しており、プロの作業を間近で覗いてみるすることができます。これを通じて今後独立した時の自分の姿を想像し、作業にも様々な刺激を受けています。休日に富山の手と山が共存する豊かな自然の中へ気軽にリサーチに行けることも、作業を発展させるのに大いに役立っています。

将来の夢

私の夢はガラスを通じて世界を旅し、いろんな経験と知識を積むことです。最終的には、プロのガラス作家として独立し、海が見えるところに白と透明に満ちたスタジオを設立したいです。

先生や仲間につけられた言葉が、大きな支え

大学では空間デザインを学んでいました。在学中に偶然出会った吹きガラスの世界に強く惹かれ、卒業後は興味の赴くまま、富山ガラス造形研究所に進学しました。入学当初は、自分の知識や技術の未熟さに焦ることも多く、時間がいくらあっても足りないと感じる日々でした。それでも、周囲はガラスのことばかり考えている人たちばかりで、そんな環境で切磋琢磨できた2年間は、今も私の大きな支えになっています。講評会で先生や仲間につけられた言葉が、今でもふとした瞬間に頭をよぎることがあります。

現在は、地元山口県に工房を構え、ガラス作家として活動しています。主に吹きガラスを使って作品を制作していますが、作業にはとてもコンパクトな窯——“デポット”という、その日使う分だけ溶かす窯を使っています。加えて、硬質ガラスやソーダガラスなども作品に合わせて使い分けています。王道な制作方法とは少し違う事に不安になることもありましたが、自分なりのやり方で続けていくうちに、最近やっと「自分らしい道」ができてきたように感じています。制作しているのは、モビールや照明、オブジェなど、空間にそっと寄り添うような作品たちです。自然の中で暮らす日々の中で出会う、光の移ろいや風のゆらぎ、小さな気づきや感情を大切にしながら、作品というかたちにしています。最近は、ガラスを続けている同期と展示会で再会することも増えてきました。離れていても、それぞれの場所で手を動かしながら続けている。そのことが、何よりの励みであり、幸せだと感じています。

経歴
1982 山口県生まれ
2006 富山ガラス研究所造形科卒業
2006 安曇野アートヒルズ工房勤務
2014 山口県にて個人工房設立

卒業生の声



2006年造形科卒業
櫻井 彩 Aya Sakurai



追憶

卒業後の進路

富山ガラス造形研究所は、全国で初めての公立のガラス造形教育機関として1991年4月に開校しました。これまで送り出した多くの学生は、ガラス造形作家として市内はもとより国内外で活躍し、我が国のガラス芸術の発展に寄与しています。2024年度卒業生の進路は、造形科から研究科に進学2名、美術大学に編入1名、留学1名のほか、金沢卯辰山工芸工房研修者2名、富山ガラス造形研究所助手1名、国内外のガラス工房に就職5名、県内外での作家活動など、数多くの卒業生がガラス関係の道に進んでいます。

入学案内

設置学科

造形科	修業年限 2年 / 入学定員 16名 入学資格 高等学校卒業者及び卒業見込みの者、又はこれに準ずる学力があると認められる者。
研究科	修業年限 2年 / 入学定員 5名 入学資格 当研究所造形科を卒業した者、又はこれと同等以上の知識、技能を有すると認められる者。 (※美術系の大学を卒業した者など)

入学者の選抜方法 (令和7年度)

造形科	平面・立体実技試験 / 面接試験 ※推薦入試はポートフォリオによる作品審査 / 面接試験 ※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。
研究科	ポートフォリオによる作品審査 / 面接試験 ※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。

授業料等 ※令和7年4月1日現在

入学考査料	18,000円
入学科	富山市内居住者：135,300円 その他の者：169,200円
授業料	390,000円 (年額)

*奨学金制度 (日本学生支援機構等) あり
*授業料減免制度あり



- 当研究所は、学校教育法第130条第2項の規定により認可を受けた富山市が設置した専修学校です。
- 学生募集要項や入学願書は、320円分の切手を貼付の上、住所・氏名を記入した角2号の返信用封筒を同封して本研究所へ請求してください。

ガラスの街とやま

富山市は、ガラスの街づくりに取り組んでいます。詳しくは、富山市ホームページ内「ガラスの街とやま」をご覧ください。
<https://www.city.toyama.lg.jp/>

富山ガラス工房 <https://www.toyama-garasukobo.jp/>

富山市ガラス美術館 <https://toyama-glass-art-museum.jp/>